

令和4(2022)年度 病害虫発生予報 第3号

令和4(2022)年6月17日
栃木県農業環境指導センター

天気の移り変わりに伴う病害虫発生量の変化に注意しましょう。

予想期間6月下旬～7月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稲 いもち病

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **やや少ない**
- (2) 根 拠 ・ 向こう1か月の気温は高く、降水量は少ない見込み。(一～土)
- (3) 対 策 ・ 葉いもちの初発時期(6月中下旬)以降、ほ場をよく見回り、早期発見に努める。
・ 発生が見られる場合は、ブラシフロアブル(F:16.1、U14)等、予防・治療効果のある薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ [BLASTAM\(いもち病発生時期予測システム\)](#)の情報、[いもち病薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 水稲 縞葉枯病(ヒメトビウンカ媒介)

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **平年並**
- (2) 根 拠 ・ 6月第1半旬までの黄色粘着板への成虫の誘殺数は平年並(±)
・ 令和4年5月に実施した、大麦におけるヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルスの県平均保毒虫率はやや低い(平年比51%)。(一～土)
- (3) 対 策 ・ 昨年発生の多かった地域では、本田期防除を実施する。
- (4) 備 考 ・ 県内の保毒虫率は低下傾向であるが、気象条件によってはヒメトビウンカの発生量が増える場合があるので、引き続き注意する。
・ [令和4\(2022\)年度植物防疫ニュースNo.4](#)を当センターHPに掲載中。

3 いちご(親株床・育苗) 炭疽病

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量が多い(平年比274%:ほ場率)。(+)
向こう1か月の気温は高く、降水量は少ない見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ほ場をよく見回り、発病株や感染が疑われる株は早急に取り除き、ほ場外で適切に処分する。
・ 水滴の飛散等で伝染するので、できるだけ水の跳ね返りのないかん水を行う。
・ 発病してからの防除は困難なので、ベルコートフロアブル(F:M7)等を定期的に散布するなど、予防を主体とした対策を行う。
- (4) 備 考 ・ [病害虫防除対策のポイント\(イチゴ炭疽病\)](#)、[薬剤感受性検定結果\(QoI剤\)](#)を当センターHPに掲載中。

4 トマト うどんこ病

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(±～+)
向こう1か月の気温は高く、降水量は少ない見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・ 密植を避け、葉かきをこまめに行い通風と日当たりを改善する。
・ 発生初期のうちに、パンチョTF顆粒水和剤(F:U6、3)等を葉裏にもよくかかるように散布する。

5 野菜類・花き類 アザミウマ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量： **平年並**
- (2) 根 拠 ・ 6月第1半旬までの青色粘着板への成虫の誘殺数はやや少ない(一～土)
・ 現在の発生量は、きゅうり及びなすでは平年並、きくではやや少ない。(一～土)
向こう1か月の気温は高い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 雑草はアザミウマ類の増殖源になるので、ほ場内外を除草する。
・ 施設栽培では開口部に防虫ネットを張り、アザミウマ類の侵入を防ぐ。
・ 発生初期から薬剤を散布する。薬剤感受性の低下を防ぐため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備 考 ・ アザミウマ類はウイルス病を媒介する。
・ [アザミウマ類薬剤感受性検定結果、検定結果\(続報\)](#)を当センターHPに掲載中。

6 なし シンクイムシ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ ナシヒメシンクイ越冬世代成虫の誘殺ピークであった4月第3半旬のフェロモントラップへの誘殺数は多い(平年比280%)。(+)
・ 有効積算温度から推測した、県内各地域におけるナシヒメシンクイ第一世代成虫の発生ピークは6月11日～20日。
- (3) 対 策 ・ 発生及び食害状況に応じてノーモルト乳剤 (I:15) 等により防除を行う。
・ 果実や新梢に食害が見られた場合は速やかに摘果またはせん除を行い、ほ場外に持ち出して適切に処分する。
- (4) 備 考 [ナシヒメシンクイの誘殺数グラフ](#)を当センターHPに掲載中。

7 果樹 果樹カメムシ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在のフェロモントラップへの誘殺数は平年並。(±)
・ 向こう1か月の気温は高く、日照時間は多い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ こまめにほ場を観察し、飛来が確認されたら防除する。
・ 4mm目合以下の多目的防災網を、隙間がないように展張する。
- (4) 備 考 ・ 山林に隣接したほ場や、過去に被害が大きかったほ場では特に注意する。
・ [令和4\(2022\)年度植物防疫ニュースNo.5](#)を当センターHPに掲載中。

8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
いちご	ハダニ類	平年並	やや多	なし	黒星病	少	少
トマト	灰色かび病	少	少	りんご	斑点落葉病	やや多	平年並
野菜類	アブラムシ類	やや少	平年並	きく	白さび病	少	少
野菜類	ハスモンヨトウ	平年並	やや多				

○施設栽培の病害虫

- ・ トマト、きゅうり、いちご等の施設栽培では、栽培終了時にハウスの密閉蒸し込みを行うなど、施設内の害虫を野外へ出さない対策を徹底しましょう。特に、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病(TYLCV)を媒介し、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病(MYSV)を媒介するため、注意が必要です。

○さくら・うめ・もも・すもも クビアカツヤカミキリ (特定外来生物)

- ・ クビアカツヤカミキリが樹木に寄生すると、幹や枝から、明るい色でうどん状のフラス(幼虫が排出する、木くずと糞が混じったもの)が大量に排出されます。さくら、うめ、もも、すもも等の樹木からフラスが出ているのを見つけたら、農業環境指導センターまで御連絡ください。
- ・ [注意喚起チラシ](#)及び[令和4\(2022\)年度植物防疫ニュースNo.2](#)を当センターHPに掲載中です。

○かんしょ サツマイモ基腐病

- ・ 本病は栃木県内での発生は確認されていませんが、令和4(2022)年6月現在、全国25都道県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。
- ・ 健全な種苗の導入及び発病株の早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。
- ・ [サツマイモ基腐病に注意!](#)を当センターHPに掲載中です。

農薬は適正に使用しましょう

- 農薬を適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農薬による事故等の発生を防止しましょう。
- 6月～8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。

1か月気象予報 (予報期間6月16日から7月17日 6月16日気象庁発表)

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は高い確率60%です。降水量は低い確率40%、日照時間は多い確率40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)

項 目	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気 温	10%	30%	60%
降 水 量	40%	30%	30%
日照時間	30%	30%	40%

詳しくは農業環境指導センター (TEL 028-626-3086) までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部 \(@tochigi_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。

